

# 投球数制限下での理事及び、審判員の試合前 / 試合中 / 試合終了後の流れ

日本リトルシニア中学硬式野球協会

## 1. 試合前におけるメンバー表、選手登録証等の監督からの受理（理事及び、審判員）

監督からメンバー表、選手登録証等を預かる際、大会1回戦のチームの監督に「投球数制限を適用」する旨を念のため伝える。

2回戦以降は、監督から投球数確認シート(様式 A)を預かった際に、理事及び、審判員は各投手の本日の投球可能数を確認しておく。

## 2. 試合前の攻守決定及び、メンバー表交換（理事及び、審判員）

審判員より試合は「投球数制限を適用」する旨、両チームの監督及び、主将に伝える。

各イニングの表及び、裏が終了した時に投手の投球数をアナウンスすることを伝え、異議がある場合は速やかに球審に申し出てもらうことを監督にお願いし、投手が第一投を投じた後は異議を唱えることはできないことを伝える。

(特に、打者に対して投じた投球がボークとなった場合、公式記録の上では投球数にカウントしないため誤差が生じることとなる)

## 3. 試合中の投球数管理（理事及び、審判員）

投球数のカウントは間違えの無いよう、2名体制で行う。

放送係は各イニングの表及び、裏が終了した時に「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球です」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、控え審判員及び、記録員、ならびに理事に確認して、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

## 4. イニング途中での投手交代（理事及び、審判員）

投手交代時に放送係は選手交代のアナウンス後、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、上記の3. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

## 5. 投球数制限に近づいた時（理事及び、審判員、ならびに記録員）

次の投手が準備投球をしていない時は、「そろそろ投球数制限に近づいていますが準備されていますか」と、監督に確認する。

投球可能数が残り5球になった時点で、「〇〇投手の投球可能数は残り5球です」と、アナウンスを入れる。

## 6. 試合終了後（理事及び、審判員、ならびに記録員）

試合終了時もイニング終了時と同様に、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

投球数を記入済みの投球数確認シートの原本(様式 A及び、B)に球場責任審判員がサイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。投球数確認シートの原本(様式 A)は監督に返却し、投球数確認シートの原本(様式 B)は責任審判員が保管する。

万が一、投球数について監督から異議の申し出があった場合は、上記の3. 及び、4. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。